

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

7月2日に独国ハンブルグで行われた、第154回独ダービー(芝2400m)を制したファンタスティックムーン(牡3歳、父シーザムーン)が、今月このコラムの主役だ。

独ダービーにおける同馬は、オッズ7.2倍の3番人気での出走だった。6月11日にケルンで行われた、独ダービーへ向けた代表的な前哨戦G2ウニオンレネン(芝2200m)を5馬身差で快勝したストレート(牡3歳、父ザラク)がオッズ3.2倍の1番人気に推され、5月1日にミュンヘンで行われたG3バヴァリアンクラシック(芝2000m)勝ち馬で、前走G2ウニオンレネンが2着だったミスター・ハリウッド(牡3歳、父イキトス)がオッズ5.4倍の2番人気に推されていた。

道中は11番手内埒沿いを追走したミスター・ハリウッドが直線でも馬場内目に進路を通って伸び、残り250mで先頭へ。道中は馬群後方に控え、直線に向くと馬場大外を通って末脚を伸ばしたのがレネ・ピーチュレクが騎乗していたファンタスティックムーンで、残り120mで先頭に立った同馬が2.1/4馬身抜け出して優勝を果たした。

21年にトルカータタツソでG1凱旋門賞を制し、一躍世界にその名が轟いたピーチュレク騎手だが、独ダービー制覇は

これが初めて。また、ピーチュレク騎手のパートナーで、同馬を管理するサラ・ショダインベルク調教師にどうも、これが初めての独ダービー制覇だった。なお1番人気のストレートは、中団で競馬をした後、直線でまったく伸びず15着に終っている。独国産馬で、ノルウェイのG3マリトス(芝2000m)は、2着以下に4.1/2馬身差をつけ、2度目の重賞制覇を果していった。

これが初戦となつたのが、5月1日のバーレー5戦目で独ダービー制覇を果したファンタスティックムーン。同馬の父シーザムーンは、14年のこのレースを1馬身差で圧勝しており、父に続く独ダービー父子制覇を達成したことになる。

英愛ダービーを連覇したオーギュストロダン(牡3歳、父ディープインパクト)、デビューから無敗の4連勝で仏ダービーを制したエースインパクト(牡3歳、父クラッシュマン)、G1仏オークス(芝2100m)を4馬身差で制し重賞5連勝を飾ったブルーローズゼン(牡3歳、父チャーチル)、今季初戦だった英ダービー2着惜敗後にロイヤルアスコットのG2キングエドワードド7世S(芝11F211Y)を3.1/2馬身差で制したキングオブステイブル(牡3歳、父ウートンバセット)に、独ダービー快勝のファンタスティックムーンが加わった今年の欧洲3歳世代は、近年になく層の厚い世代と言えそうである。